速報　ＪＲ総連緊急対策本部情報
ＪＲ総連 東日本大震災(東北地方太平洋沖地震) 緊急対策本部情報
2011年6月16日
№38
発行：全日本鉄道労働組合総連合会

頑張ろう！被災者のみなさん。

原発避難地域周辺

原発事故と会社対応に怒り

ＪＲ東労組郡山支部に飲料水・組合員を激励

（写真上から）ＪＲ東労組郡山支部で意見交換／グランドの中央部だけ掘り返された郡山市の小原田小学校／閑散とした郡山市内の避難者向け仮設住宅

ＪＲ総連は6月14日、原発避難地域の周辺にあたる福島県郡山市を訪れ、ＪＲ東労組郡山支部に飲料水(500ml ボトル約1,000本)を届けました。

これは郡山運輸区分会の役員から、「小さな子どもを抱える組合員は不安な毎日を過ごしている」「避難した家族もいれば、家の事情で避難できない家族もいる」などの避難地域周辺での直面する悩みや、「首都圏での『脱原発』運動など、福島・郡山地域に情報が入らない」「とにかく小さな子どもを抱える人に水を支援したい」といった訴えがきっかけです。

6月12日からのＪＲ東労組第27回定期大会会場でこの状況を聞いたＪＲ総連は、飲料水の運搬と現地視察を決定。黒田政治共闘部長、山田国際部長が直ちに現地へと向かいました。

郡山市は富岡町や川内村から避難してきた住民の対策本部が設けられ、避難者の仮設住宅が建っています。しかし、仮設住宅への入居がまばらなのは、避難しても働く場がなく、避難先で生活ができないからだと聞きます。また、小学校のグランドは放射線量が高い表土が削られ、掘りおこして埋め戻されています。子どもたちの遊ぶ姿は見られません。

ＪＲ東労組郡山支部との意見交換では、ＪＲ東労組郡山支部・佐々木委員長らから「避難地域の周辺に住む我々は、震災直後は(放射能の影響を)心配していたが、時間が経つにつれ『心配しないようにしよう』と諦め切ってしまっている」という組合員のもって行き場のない怒りや、放射線量が高いといわれる地域で働く不安に、「政府が安全と言っているから安全だ」と言い切る会社の対応などが語られました。

郡山支部は「飲料水の配布などで、組合員と原発問題を論議したい」と、事故や会社への怒りを持ち、事故から起こる様々な問題に立ち向かっています。

ＪＲ総連は、現場で不安を抱き生活する組合員や家族の気持ちを大切にして「脱原発社会」を目指し、運動を進めていきます。